

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	玉野市立第二日比小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	2	2	2	2	11	15
児童数	31	36	36	45	55	47	4	254	

研究の概要

1. 研究主題

「できる！わかる！楽しい！算数科の授業
～個が生きる少人数指導のあり方を求めて～」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

3～6年算数 子どもの理解度に差が出やすい教科，学年であるため

(2) 年次ごとの計画

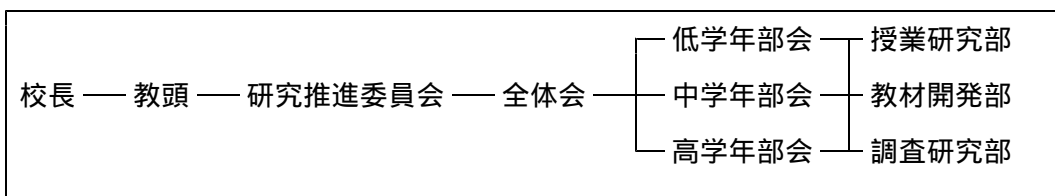
平成 14 年度	<p>テーマ 「できる！わかる！楽しい！算数科の授業 ～個が生きる少人数指導のあり方を求めて～」</p> <p>研究の見通し（仮説） ・個人差・学力差が見られる算数科の学習において少人数指導を実施し できる・わかる体験を積み重ねることによって，学習意欲の充実・学 力の向上をめざす。</p> <p>研究の内容・方法 ・2学級を3グループに分けたり，各学級を2グループに分けたりして 少人数指導を実施した。均質・等人数のグループ編成や習熟度別，課 題別コース編成等，コース編成の仕方を工夫し授業研究を進めた。</p>
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 「できる！わかる！楽しい！算数科の授業 ～個が生きる少人数指導のあり方を求めて～」</p> <p>研究の見通し ・少人数指導のコース編成において，課題別や習熟度別コース等が考え られるが，領域によって効果的なコース編成があるのではないかと考 えられる。</p> <p>研究の内容・方法 ・「A数と計算，B量と測定，C図形，D数量関係」の4領域によって 指導形態の工夫ができそうである。「A数と計算，D数量関係」では， 児童の習熟度に大きな差が見られるため習熟度別のコース編成が， 「B量と測定，C図形」では，多くの直接体験を取り入れ表現処理の 確実な力の定着をはかるために，均質・等人数のコース編成が効果的 なのではないかと考えられる。そこで，授業研究を通して効果的な指 導形態・学習活動について検証していく。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「できる！わかる！楽しい！算数科の授業 ～個が生きる少人数指導のあり方を求めて～」</p> <p>研究の見通し ・習熟度別少人数指導に積極的に取り組み各コースの到達目標や適切な</p>
----------------	---

算数的活動を工夫することで、学力の向上が期待できるのではないか。
 ・授業評価や自己評価など適切な評価を取り入れることで、学習意欲・学力の向上が期待できるのではないか。
 研究の内容・方法
 ・学習者の実態に応じた指導法であったか、学習したことや身に付けた力を学習者自身が的確に振り返ることができるか等、授業評価や自己評価の在り方を探っていく。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 少人数指導に取り組んでいる算数科においては、他教科に比べ平均到達度はかなり高くなっている。習熟度別・課題別のコースを設定して少人数指導に取り組んだ結果、思考力以外では十分な到達度を達成したといえる。またレディネステストだけでなく、毎時間、最後に振り返りの時間をとったり、単元終了時にコース選択についてアンケートを行ったりすることで、児童が自分に合ったコースを選択する力が増し、学習効果が上がっている。
- ・ 学校全体で行ったアンケートの結果から算数の学習を「楽しい」と答えた児童は全体の71%、「どちらともいえない」が20%、「そうでない」が9%であった。1学期の結果と比べると算数の学習を楽しんでいる児童が増え、そうでない児童が減った。このことから少人数指導により、適切な課題に沿って自分のペースで学習することができ、自信をもって学習に取り組む児童が増えたと考える。
- ・ 領域によって適したコース編成があるのではないかと探ってきたが、どの領域でも単元のどこかで習熟度別コースを取り入れることが効果的だと考えるようになってきた。単元の始めに、TTで児童の実態をつかみ、その後、習熟度別コースに分かれて学習を進めるパターンが本校では主流になってきた。高学年になるとそれまでの学習経験や既習事項を活用する単元が増えることから、レディネステストやアンケートをもとに単元の最初から習熟度別コースに分かれて学習を進めることもできた。

2. 今後の課題

- ・ 話し合いの質を高めていく上で、少人数指導としての効果があるのか。また、単元ごとに指導教員が変わるので、児童にとって指導教員との人間関係や指導方法の違いなどが効果に影響しており、学力の向上を図る上では課題である。
- ・ 算数の学習を支える計算力を着実に伸ばしていく取り組みの推進。
- ・ 考える力を伸ばしていくにはどのような指導方法が望ましいのか。
- ・ 指導法の共通理解をはかったり、単元でつける力（何を大事にしていくか、評価規準）の確認をしたりする打ち合わせの時間をいかに確保していくか。
- ・ 習熟度別少人数指導に取り組む場合、各コースの到達目標をいかに設定し、どう評価していくか。

学力等把握のための学校としての取組

単元ごとの具体的な評価規準を作成している。
 定期的な学力調査の実施（年1回）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成14・15年度は授業研究を公開，平成16年11月17日，玉野市教育研究発表会で算数科における少人数指導の研究成果を発表予定。
HP作成 (<http://www.ednet.tamano.okayama.jp/ps-nihibi/2003/frontier/2003f-top.htm>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無